

平成 25.1.11

子ども服に安全基準

上着のフードを遊具に引っ掛けて首が絞まったり、裾のひもを踏んで転んだり。意外と多い洋服に起因する子どもの事故を防ぐと、経済産業省は有識者らの検討会を発足させ、子ども服の安全基準作りに着手した。2013年度中にも日本工業規格（JIS）を策定したい考えだ。

「フード付きの服は、めた服の安全性を考え、着せないでください。」
「ほしい」と話す。

東京都文京区の女性会社員（40）は昨年春、長女（2）を保育園に入れた時に園から注意された。危険性は知っていたが「売り場にはフード付きが多くて、つい買ってしまう。今はおとなしい娘も、成長して目が届かなくなっ

たらと心配。素材も含や首を引っかいた」など、16・5%が実際にけがをしていた。こうした調査を受け、業界団体の全日本婦人子供服工業組合連合会は08年以降、子ども服の安全指針を策定。「7〜8歳未満の服はフードや襟首にひもを付けないことが望ましい」と定めた。だが拘束力はなく、ネット通販など流通形態の多様化で十分に浸透していないのが実情だ。

昨年3月には東京都の4歳の女児が自宅玄関を出る時、パーカルのフードをドアの取っ手に引っ掛けて首が絞まり、入院する事故も起きた。事例を報告した日本小児科学会は「気

を付けましよう」では予防できず、衣服の構造を変えることが必要」と指摘する。

規格を調査した上で春以降に規格の原案を作成する。

子ども服のミキハウス（大阪）は顧客の母親から「襟首のひもを子ども同士が引っ張って危険」との声が寄せられたのをきっかけに、ひもをつけないデザインに変更するなど独自に取り組みをしてきた。同社の上田泰三品質管理課長は「自主的な指針ではメーカーによって考え方が違う。安全な物作りのため、国が指針を示してくれた方がいい」と歓迎している。

フード、ひも…潜む危険 事故多発で経産省策定へ

子ども服に潜む危険の例

（国民生活センター・東京都の資料を基に作成）



対策ポイント

- ・ひもは外すか、付いていない服を選ぶ
- ・ファスナーはプラスチック製にするか、ボタン、マジックテープなどに
- ・フード付きの服は遊ぶ時はなるべく着せない

安全とデザイン両立を

子ども服の安全性向上に取り組む日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会の田近秀子さんの話。欧米では既に子ども服の安全規格があるのに、日本は立ち遅れている。親は子どもにかわいい服を着せたいものだが、服に潜む危険性についての情報があれば、選ぶ姿勢も変わるだろう。消費者への啓発と同時に、デザインとの両立を考えた安全対策を急ぐ必要がある。子どもが安全に着られる服を考えることは、大人の服の安全確保にもつながる。